



あなたの街の  
ドクターが  
アドバイス

## 嚥下障害について

嚥下には脳神経の働きが関与。原因の特定と治療には「嚥下造影」検査が有用

嚥下とは、食物を口から食道を通り胃に送るまでの動きです。嚥下障害とは、食べ物や飲み物を飲み込みにくくなった状態で、自覚的には「食事時にむせる」「飲み込みに時間がかかる」などと感じられます。

嚥下障害の原因は、口腔や歯、喉頭の病気、脳卒中、神経や筋肉の病気、加齢による変化などさまざまです。脳卒中はそのうちの約40%を占めます。正常な嚥下には、口唇、舌の動き、唾液の分泌、喉頭の動きがスムーズに連携することが必要で、その過程にはたくさん脳神経の働きが関与します。脳の働きが損なわれることにより嚥下障害が生じ、脳卒中になると急性期には約30%に嚥下障害の合併があります。嚥下障害の原因の特定と同時に、嚥下のどの過程が悪くなっているかの診断も大切で、嚥下障害の程度や病態を知るためには「嚥下造影」という検査が有用です。

嚥下造影は、バリウムを含む飲食物を飲み込みながらX線を照射して喉の動きや飲食物の通過をレントゲン写真で見える検査です。それによって患者さんの嚥下の状態を評価し、食事をする時の姿勢や飲み込みやすい食物の形態、また嚥下障害の悪化防止や改善のためのセルフケアについてアドバイスをすることができます（嚥下造影で造影剤のアレルギイが起ることがあります。また、検査時に15mGy程度の被爆があります）。

「食べる」ことは単に食物で栄養を摂るだけでなく、味や食感を楽しむ季節を感じ、一緒に飲食をする人との時間を楽しむ大切な行為です。おいしく食べることができるよう、歯や口腔のケアを行い、嚥下に不調を感じた時は、嚥下造影を含む嚥下困難に対しての相談、検査を行っている医療機関に相談しましょう。

今回のドクターは



札幌宮の沢脳神経外科病院  
脳神経外科

笹森 由美子 先生

1993年札幌医科大学卒業。  
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医